

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



2月6日の大泉緑地で冬のバードウォッチングは、お天気に恵まれ13名が参加した。今回見られたのは29種。

Contents

- 第27回総会のお知らせ P 2
- 日中植林・植樹国際連帯事業の助成が内定しました P 2
- 自然と親しむ会・GEN なんでも勉強会参加者募集 P 3
- 大同緑化協力25年の軌跡 P 6
- 黄土高原紀行 P 7

2021.3

198

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



緑の地球ネットワーク 第27回総会のお知らせ

いつも GEN を応援していただきありがとうございます。第27回総会のお知らせです。

昨年はコロナの影響で、スタディツアーもスタッフの派遣もできない1年となりましたが、中国での緑化協力は継続することができました。

国内では密を避けるため、総会や運営懇談会はオンラインでおこないました。2月に初めて開催したオンライン勉強会が好評だったので、第2回目以降を積極的にこなしていく予定です。

2021年度も勉強会のほか、さまざまなオンラインでのイベントを企画して

います。みなさんとアイデアや知恵を出しあいながら今年も活動を継続していきますので、ぜひ総会にご参加ください。

○日程：6月12日(土)13時30分～
○会場：大阪産業創造館5階研修室C
※会場での総会とあわせて、Zoomによる遠隔会議も開催します。

総会のほか、GEN世話人、会員の若手メンバーで今後の活動について検討するために立ち上げた「将来ワーキンググループ」の中間報告を予定しています。詳細は次号でお知らせします。

日中植林・植樹国際連帯事業の助成が 内定しました

河北省蔚県における緑化協力事業に活用します

外務省が推進し(公財)日中友好会館が実施する日中植林・植樹国際連帯事業の助成が内定しました。対象は緑の地球ネットワークが河北省張家口市蔚県陽眷鎮金泉村で実施する緑化協力

事業で、20haにアブラマツとアンズを植えます。内定金額は9,963千円です(うち70万円は専門家派遣のコロナ対策費)。現地では事業を実施するカウンターパートは従来と同じですが、日本の私たちと現地との間を取り持つ中国側カウンターパートは北京林学会に交替しました。これまでお世話になってきた中国国際青年交流センターがこの連帯事業に取り組まないためです。新しいカウンターパートと結びつけるために大きな助力をいただきました。深く感謝いたします。



事務局よりお願い
メールアドレスをお知らせください

GENでは今後、勉強会をはじめオンラインでのさまざまなイベントを計画しています。これらのイベントはメールでの連絡が中心となりますので、メールアドレスをお知らせいただいている

方は、GEN事務所(gen@gen-tree.org)までお知らせいただくようお願いいたします。また、アドレスを変更された方もご連絡ください。今後、さまざまなGENのイベントの案内をさせていた

イオン環境財団 助成が決まりました

公益財団法人イオン環境財団の環境活動助成が今年も決まりました。申請額満額の150万円です。河北省蔚県陽眷鎮溝門口村にアンズを植えるプロジェクトに有効に使わせていただきます。

ここは水土流失と砂漠化の厳しい地域ですが、環境保護と農村の経済的自立という2つの目的に役立ちます。

GENの YouTubeチャンネル 開設しました

GENの活動をより多くの人に知ってもらおうと、世話人の鶴田惇さんがYouTubeでGENのチャンネルを作成してくれました。

URL <https://www.youtube.com/channel/UCRXZ1TV0CjEiV14RKgSnjUQ>
またはYouTubeで「緑の地球ネットワーク」と検索すると出てきます。GENで制作した「黄色い大地に広がる緑」、「よみがえる森」などをご覧いただけます。2月におこなった久保輝幸さんのオンライン勉強会「中国の植物文化と園芸技術」を期間限定で公開しています。

今後さらにコンテンツを増やし、内容を充実させていく予定です。チャンネル登録していただけたらうれしいです。GENに興味を持ったご友人などへ活動を紹介するツールとしてもご利用ください。また、「こんな内容の動画が見てみたい」など、みなさんご意見やご提案をお待ちしております。

できます。ご希望の方には会報のメールでの送付もおこないますのでその旨お書き添えください。また、住所、電話番号等の変更がありましたらGENまでご一報いただくようお願いいたします。

春のさまざまなイベントを企画しました
みなさまのご参加をお待ちしております

GENなんでも勉強会 オンライン 植物文化 サクラとくらし

春のお花見シーズンの前にサクラについて学びませんか。日本の文化と深いかわりのあるサクラのあれこれについて、GEN代表の前中久行さんにお話しいただきます。

○日時：3月28日(日)13時30分～15時30分ごろ

○手段：ウェブ会議システム Zoom

○講師：前中久行さん(GEN代表)

○参加費：無料

○お申込み・問合せ：3月24日(水)までに表題を「植物文化サクラとくらし参加希望」としてGENまで(gen@gen-tree.org)メールをお送りください。GENのHPイベント欄からもお申込みいただけます。後日、GENよりZoomのミーティングIDとパスワードをお知らせします。

オンライン交流会 王萍さんと話そう

大同で長年ボランティア通訳を務めていただいた王萍さんを囲んでのオンライン交流会をおこないます。「中国のメンバーはどうしてる?」と思われる方、オンラインで交流しませんか。○日時：3月26日(金)18時30分～19時30分ごろ

○手段：ウェブ会議システム Zoom

○参加費：無料

○申込み：3月23日(火)までに表題を「王萍さんと話そう参加希望」とし、氏名と王萍さんに聞きたいことを本文に記入してGENまで(gen@gen-tree.org)メールをお送りください。GENのHPイベント欄からもお申込みいただけます。後日、GENよりZoomのミーティングIDとパスワードをお知らせします。

GENなんでも勉強会 オンライン 漢方薬の歴史と 薬用牡丹

好評につき久保輝幸さんによる勉強会の第2回目をおこないます。中国園芸史、本草、訓詁に通じた久保輝幸さんに再び登壇いただき、薬用牡丹の歴史を例に、中国の漢方薬の歴史や、牡丹はいつどのようにして日本に持ち込まれたのか、ご紹介いただきます。

○日程：4月10日(土)13時30分～15時30分ごろ

○手段：ウェブ会議システム Zoom

○講師：久保輝幸さん(GEN会員、浙江工商大学東亜研究院)

○参加費：無料

○お申込み・問合せ：4月7日(水)までに表題を「漢方薬の歴史と薬用牡丹参加希望」としてGENまで(gen@gen-tree.org)メールをお送りください。GENのHPイベント欄からもお申込みいただけます。後日、GENよりZoomのミーティングIDとパスワードをお知らせします。

イベント運営サイト Peatix (URL <https://gen-nandemo-1.peatix.com/>)からもお申込みいただけます。

GEN自然と親しむ会 前中代表と歩く 「野の道」シリーズ⑤ 春の知明湖周辺 ハイキング

毎回好評いただいている前中代表の「野の道」シリーズ、今回は川西市の知明湖(一庫ダム)周辺をハイキングしながら春の自然観察をおこないます。○日時：4月3日(土)9時55分～15時ごろ

○場所：兵庫県川西市知明湖周辺

○案内：前中久行さん(GEN代表)

○集合：9時55分に能勢電鉄「山下」駅改札(駅からバスで移動します)

○参加費：500円(保険料を含む)

○定員：12名

○持ち物：歩きやすい服装と靴、弁当、飲み物、敷物、雨具

○お申込み・問合せ：3月31日(水)までに氏名、生年月日、連絡先をGENまでご連絡ください。

※小雨決行
※状況により変更・中止の可能性がります。

GEN 関東ブランチ オンライン月例会

GEN 関東ブランチオンライン月例会は毎月第4土曜日におこなっています。ウェブ会議システム Zoom を利用するので、どこからでも、どなたでもご参加いただけます。

月例会の案内は関東ブランチのメーリングリストから発信されますので、興味をお持ちの方はメーリングリストへの登録をお願いいたします。登録希望の方は上田信さん(ueda@rikkyo.ac.jp)までご連絡ください。

【3月度月例会】

○日時：3月27日(土)15時～
○話題提供：上田信さん(立教大学文学部教授)

○タイトル：歴史の中の蔚県(中世・近世編)

2月の古代にひきつづき、GENの活動地、蔚県の歴史の中世・近世について上田信さんにお話しいただきます。

【4月度月例会】

○日時：4月24日(土)15時～
○話題提供：前中久行さん(GEN代表)

○タイトル：森・いわゆる里山・庭
意外にも関東ブランチの月例会は初登場、GEN代表の前中久行さんに森や里山についてお話しいただきます。



あの人 この人

「あの人この人」では、個性豊かな GEN 会員のあれこれをご紹介します。

原 裕太さん（東京都）



・簡単に自己紹介をお願いします。

原裕太と申します。1992年生まれ、GEN と同年です。京大院修了後、学振研究員を経て、現在は東京大学の学部1・2年生の教育を担う教養学部 (@駒場) で、分野横断的な SDGs 教育のコーディネータをしています。専門は地理学、地球環境学です。とくに黄土高原をはじめとする農山村の持続可能な土地利用や地域計画について研究しています。また、防災・減災対策、気候変動、

現代中国などのテーマでも授業や講演を行っています。

・いつから GEN に参加しましたか？

2013～2014年頃と思います。

・GENに入ったきっかけは？

GEN 世話人の松永光平さんにご紹介頂いたためです。当時は大学生でした。高校生の頃に視たドキュメンタリー番組がきっかけで黄土高原に興味があったのですが、なかなか関わるすべがなく、GEN についてもホームページを見ている程度でした。研究対象として黄土高原に関わりたと思った私は、当時の研究室のボスから知人の松永さんを紹介してもらい、松永さんにご相談するなかで GEN についてお聞きし、入会を決意しました。

・印象にのこのる GEN の活動は？

2019年に初めてツアーに参加しました。私は主に陝西省北部で調査しているのですが、大同～蔚県あたりでは、陝北地域であり栽培されなくなっているアワヤキビ、莜麦といった雑穀の畑地が広がっていて驚きました。南天門を訪れることもでき、多様な植物による自然の林相が再生している光景に感銘を受けました。

・GEN の良いところは？

SDGs では、個々の目標やターゲットは不可分なものとして位置づけられており、多角的な視野でそれぞれの相乗効果や

背反に注目することが重視されています。また、研究者の世界では、限られた専門家だけでなく、地域の方々やステークホルダーとも積極的に関わりながら共にデザインしていく「超学際研究」が話題です。以上は、まさに GEN がこれまで取り組んできたことだと思います。単に緑化するだけでなく、小学校附属果樹園を造るなど地域の総合的な課題改善を見据えてきたこと、その際には市井の知恵や考えからも学び、科学知との融合を図ってきたこと、そうした経験は国際的にも貴重な事例だと思います。

・逆に悪いところは？

知名度でしょうか？ 例えばですが、国際協力系、環境系の NGO/NPO が集まる枠組みや取組みなどに参画したり、インターンを受け入れたりすることで、GEN の理念や活動に共感し関心を持つ学生や若い方が増えてくるのではと思います。

・GEN に期待すること

GEN は現地との草の根の信頼関係の基で、政府ではできない NPO ならではの成果を挙げてきました。各地で「誰一人取り残さない」社会の実現が目指されるなか、フィールドの現場の視点で活動し、地域のいまを伝えられる団体が、次の世代、その次の世代へと続いていけばいいと思います。

内容が盛りだくさんで全部はとてここでは伝えきれませんので、私の印象に残っている内容を2つご紹介します。

一つ目は、瓜の漢字の成り立ちについてです。瓜はもともと象形文字として漢字ができましたがウリは範疇が広いので、同じウリの中でも次第に音で区別して漢字が分かれていきました。例えば、「ひょうたん」を表す、「瓢」や「瓠」などです。ただ、一字一音にも限界があり、次第に「南瓜」「西瓜」など二字で書き表すようになった、というものです。人が頻繁に使うものが、細分化して表現されていく様子が漢字からみてとれ、大変興味深かったです。

二つ目は、接ぎ木についてです。「芥民要術」では、梨の接ぎ木方法 (ノ)

中国との縁 継続は力なり

堂込 麻紀子（イオンリテールワーカーズユニオン）

GEN にご協力いただいている団体にメッセージを寄せていただくコーナー、今回は長年ツアー派遣をいただいているイオンリテールワーカーズユニオンです。

11月号でサントリー労働組合（現・THE SUNTORY UNION）吉弘さんの記事を拝見したのちに、私の元へバトンが回ってきました。これまで3回、中国大同市、そして蔚県での植樹ツアーに参加してきました。そのなかでも一番印象深いのが2013年4月に訪中した機会でした。

はじめに、イオンリテールワーカーズユニオンが GEN の活動を支援するきっかけになったのは、阪神淡路大震



(ノ) が詳しく紹介されています。特にその中で、棗や石榴と梨を接ぐという、「異科接木」が紹介されています。一般に、近縁な植物には接木できますが、相手が遠縁になるほど接木は成立しにくくなり、分類学的に科が異なる植物との接木「異科接木」はできないと考えられています。今はできないと言われていることが、当時はされていた可能性があり、その技術に非常に興味を覚えました。久保先生も、ご自宅で異科接ぎ木に挑戦されているということで、結果が楽しみです。

当時の中国での人の生活に根付いた植物の表現方法や利用方法の歴史を垣間見て、植物との距離を少し縮められた気がします。第二回講演会も企画してくださるということで、大変楽しみです。久保先生、次回も宜しくお願いします。

災が起きた1995年でした。中国植樹の新聞記事が当時の書記長の目にとまり、労働組合がなにかできないかと連絡をとったことからでした。GEN が取り組む中国での植樹活動に組合員が参加することで、環境保護、社会貢献だけでなく、参加者自身の人生が豊かになること、人材の育成を目的に労働組合が主催し行程やカリキュラムを練って毎年ツアーを組んできました。

2013年4月にツアーを行うと組合員に広報し、集まったメンバーはなんと4名。サントリー労働組合と合同開催で11名のツアー団とこれまでにない最少催行人数となりました。「参加者が集まらない」その背景には様ざまあるのですが、当時は尖閣問題に端を発する日中関係に国民も関心が高まったタイミング、また PM2.5 の環境問題もそこに加わり、中国に行きたいと手を挙げる組合員がはたして

いるのか、と思えるほど最高によろしくない状況のなかで行くか、行かないかの判断を迫られることになったのです。しかし、こんな状況だからこそ中国に足を運んで、現地・現物をこの目で見て触れて、そして日中間の交流を途絶えさせないという使命感のようなものがいつしか芽生えていました。なんとメンバーも集まり、不安を抱えながらのツアー団は無事に大同にたどり着くことができたのです。

そこからは、私たち日本人植樹活動家たちをこれまでと全然変わらなく大歓迎で迎え入れてくれる現地のみなさん、子どもたち、そして怒涛の植樹と朋友たちとの乾杯が待ち構えていました。中国で過ごした日々は渡航前の不安が吹き消され、真っ青な澄んだ青空と乾いた土、わずかに緑が茂る大地、どこか懐かしく美味しい手料理たちと何より交流を深めるたびに増す国境を越えた人々の笑顔がいまなお印象に残っています。なかにはわずかな昼食の時間に親交が深まり、食後に涙して別れを惜んでいたメンバーも。

このような出会いがあるのがこのツアーの良さであり、異国の問題でも自分事として関心を持つことができるきっかけの一つでもあります。より多くの方がこのような活動に関わり、自分なりの考えをもって行動に移せる人が増えたらよいと思います。

中国通訳で大変お世話になった方が私たちに伝えてくれたことがあります。「もう日本からの友人は来ることはない」と諦めていました。日中国交が結ばれ、私は日本語を勉強することに転換し、それまでの日本に対する考えを変えました。日中関係が思わしくないなか交流を絶やさず、中国の発展を支援するみなさんに心より感謝します。」こちらこそ、心に緑が溢れました。本当にありがとうございます。

切手寄付のご報告

古切手や書き損じはがきの回収にご協力いただき、ありがとうございます。今年度、これまでにお送りいただいた未使用切手による寄付は57,416円になりました。また、書き損じはがきは12,600円相当の切手やミニレターに交換しました。これらは通信費として活用しました。古切手・外国コイン等は換金して23,680円になりました。緑化資金として活用します。

GEN では書き損じはがき（官製はがき）、古切手、外国コイン、未使用の切手やテレホンカード（新品）、商品券などを回収しています。使わずにご自宅で眠っている切手等がありましたら GEN までお送りください。

中国の古典から植物文化を探る

鶴田 惇（GEN 世話人）

2月14日（日）、GEN なんでも勉強会オンライン「中国の植物文化と園芸技術」を行い、久保輝幸さんにお話しいただきました。29名が参加しました。

黄土高原での GEN のツアーに参加すると、自然、人と自然の関わり方が日本と中国で全然違う、ということを感じることができます。その場に行っていること、というのはとても大きいと思います。ただ、過去には行けません。昔の大同は緑が生い茂っていたと聞きますが、当時はどのような植物があり、その植物とどのように付き合っていたのでしょうか。

今回は「中国の植物文化と園芸技術」

という題で、久保輝幸先生に講演をしていただきました。GEN 初めてのオンライン講座で、Zoom 初参加の方もいらっしゃったかと思いますが、特にトラブルもなく、無事に実施することができました。

講演会では、漢字の使われ方や、春秋戦国時代の詩集「詩経・楚辞」、北魏の「芥民要術」などに書かれていることをもとに、当時の人と植物の関係について教えていただきました。講演



大同緑化協力 25 年の軌跡

途中で人が変わった！

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で24回目です。(高見邦雄)

1992年から大同で緑化協力を始め、いつのまにか私が専門の担当者ようになったんですけど、大同側で初期につきあった人たちは、高見は途中で人が変わったと口をそろえます。

最初は遠慮して、猫をかぶっていました。この協力事業は先方の要請があったわけではなく、私たちの一方的な押しかけではじまりました。そして大同は日中戦争において非常に深刻な被害を受けており、その経験者がまだ現役でしたし、若い人もそれをきいて育っています。へたなことを口にしたら、なにが起こるかかわからない。その緊張感がありました。

北京からきた友人の王黎傑さんが、「高見さん、なにがあったのですか？」と私にききました。大同の青年団の責任者だった劉懐光さんが「高見とはなかよくやっているけど、ひとつ許せないのは自分を人でないとのししたことだ」と話したというのです。なにかがうまくいなくて、小声で私が「チクショー」と口にしたのを、そばにいた臨時通訳の旅行社のガイドさんが、「人間でないと云ってる」と伝えたらいいのです。そんなこともあって、私は萎縮せざるをえませんでした。でも、自分をあまりに抑えていると、なにかのきっかけで暴発する恐れがあります。

そしてこういう協力を前に向かって回すには、相互の理解が絶対に必要です。自分の考えを隠したり、遠慮したりしては、相互の関係は深まらないでしょう。おそらく3～4年目ですが、私は突然に態度を変えました。自分の考えを思い切りぶつかけたり、先方の考えに意識してぶつかったりしたのです。

1996年春、私は大同にワープロを持ち込んで、「酔っぱらい大同日記」と題した日記を書き始めました。メモや

ノートは子どものころからとれないけど、ワープロのキーを叩くことはできます。1日あたり数千字から2万字くらい書き続けました。

コロナ禍でそれを読み返して驚きました。ほんとによくぶつかっています。大同の人たちが驚いて当然でしょう。そしてそれがよかったです。こちらが自分を積極的にさらけ出したことで、こちらの考え方をわかってもらえたと思います。先方も同じように、自分たちが抱えている問題、それを解決するためにはなにが必要かといったことを、率直に話してくれるようになりました。

それを繰り返すうちに、問題の見方や考え方がだんだんと近づいてきます。

双方が同時に口を開いたとき、通訳の王萍さんが「ふたりとも同じことを言っています」というので、おお、この通訳はラクでいいな、とって笑いあったものです。

日本の対中 ODA 関係者の視察が 2000 年ごろにあつて、そのとき「うらやましいですよ。こんな協力関係ができていて」と言われたのは、そのあたりのことを敏感に感じ取られたんだと思います。

そのとき太原からきていた山西省林業庁の幹部は、武春珍所長に「えっ、あんたはまだ2年しかこの仕事をやっていないのか。それで日本側とこんな関係ができていいのか。どうだ、自分たちのところにこないか。やりがいはい大きいし、待遇もここよりはいい」と、私の目の前で口説くんです。ちょっと、それはないじゃない！

その後、私はケンカをすることも、ぶつかることもほとんどなくなりました。その必要がなくなったことと、歳のせいでしょうね。また人が変わったのです。

冬の気分転換はバードウォッチングで

小西 絹子 (GEN 会員)

2月6日(土)、GEN自然と親しむ会 大泉緑地で冬のバードウォッチングをおこないました。13名が参加しました。

絶好のウォッチング日和に集まったのは11人。足取り軽く、新金岡駅から800mほどの大泉緑地は大勢の家族連れ、若者の群れがコロナ自粛の閉塞感を忘れさせてくれた。林あり、池あり、木立ちあり、草地あり、広場あり。それぞれの環境を好む鳥たちが、「よう来たの〜〜〜」と言う風情で姿を見せてくれる。政令指定都市になってからの堺市の拡大発展は目覚ましい。住宅地を近くに抱えながら、これほどの緑地を残せる堺市に乾杯！

既に下見をされた高田先生のご案内



木の枝に留まるアトリ

でそぞろ歩き。北半分にある大きな大泉池には冬定番のオカヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、ホシハジロ、アオサギ、ダイサギ、カワセミなど。「野鳥に餌をやらないう」と言われても、どうして誘惑に勝てない奴は何処にでもいる。足音に引き寄せられるように、スーと鳥たちは寄ってくる。「エサはないよ」と空手を振ると、バンもヒドリガモも「フン」と言う風情で泳ぎ去る。慣れているんだ。

木立に入るとシジュウカラ、メジロ、シロハラ、エナガ、ジョウビタキ、ツグミなど見慣れた冬鳥がそこここに姿を見せてくれる。「アトリやな〜」と先生。冬の有難さは葉っぱを落とした木々に立ち寄り鳥たちを見つけやすいこと。若葉が出始めるとこうはいかない。最近とみにトロくなってきた我が目には見つけること自体難しくな(ア)

黄土高原紀行<3>

一、雲岡石窟 (2)

日本建築のルーツをさぐるべく3年におよぶ中国、東南アジア、西アジアへの調査行を企図した伊東博士は、1902年6月、他の4氏とともに河北省張家口から山西省大同にいたり、武州川(武州河)にそって行くこと30里にして雲岡に出た。

此石窟寺の発見は全く偶然であった。此の地に拓跋氏時代の遺跡が現存してゐやうとは夢想してをらなかったのである。実は大同では遼や金の遺物を探るのが目的であったところが、案外な発見を致して実に雀躍して喜んだ。(『伊東忠太著作集』第五卷、原書房、1982年、127ページ)

ここにいう拓跋氏とは、トルコ系と目される遊牧民、鮮卑族拓跋部のこと。はるか東北方の森林・草原の間から馬に乗ってやってきて、内モンゴルの成楽に代を建国。さらに東の山西省大同に移って国都平城をいとなみ、北魏を建てた。この地は、のち遼(916～1125)および金(1115～1234)のとき、西京大同府が置かれたように、中国西北地方の中心だった。いまも市内には、遼代創建(のち重修)の華嚴寺が現存している。

伊東博士による「拓跋氏時代の遺跡」の発見はまさしくヒョウタンから駒

(ノ)る。今がチャンスとキョロキョロしているとドバトの圧巻の群れ。鳩か、なんて侮るなかれ。群れで寄ってくると、これがなかなかの見もの。光に反応する首筋の色の変化もオヤツと振り返るほど美しいではないか。「アッ、ソウシチョウ！」との声にすかさずカメラを向けた途端、無情の電池切れ！

今回、感心したのは「樹のみち」。2年前の台風21号でバタバタ倒れた沢山の木をチップに粉砕して木道に活用している。これが足の負担を和らげ実に快適なのだ。市街地に近い山地では自然に任せ放題には出来ないから、年に一度は枝切り、伐採が欠かせない。我が地域の遊歩道にも提案しようと思ったのが今回の収穫。

谷口 義介 (GEN 会員)

だったが、それをうけて雲岡石窟の調査と研究をおし進めたのは、主として日本の学者たちにはほかならない。

1917年に大村西崖の『支那美術史雕塑篇』が出たあと、25年に関野貞・常盤大定(たいじょう)の『支那仏教史蹟』第2冊が出版、雲岡研究に画期をあたえた。現在も使われている石窟番号は、この書にもとづいている。

ついで1938～44年の間、東方文化研究所(現・京大人文研)の水野清一・永廣敏雄らが7回おもむいて、撮影・実測・拓本取り・小発掘などによる厳密な考古学的調査を実施した。もちろん、このころ山西省を占領していた日本軍のガードの下で、である。

永廣氏の『雲岡日記——大戦中の仏教石窟調査』(NHKブックス、1988年)によれば、石窟内は隣接する農家が物置として利用、仏像の破壊もはなはだしく、比較的完好なものはつぎつぎ持ち去られる、という状態だったらしい。しかし、その調査活動は話題をよび、大同市内から平日に1便、休日には2便の見学バスが運行したという。

この間の1907年、フランスのシャパンヌが訪問、写真78枚を発表。18年、陳垣(ちんえん)から考証。22年、スウェーデンのシレンが訪れ、写真61枚を公表。33年、梁思成ら調査。36年、白志謙が案内書を刊行したが、以上のいずれもが本格的な学術調査とはいえないようだ。

日本の敗戦によって調査活動が中断したあと、雲岡石窟はふたたび受難の時期をむかえる。雨漏りによって石室内には水がたまり、近くの炭坑からの粉塵で石仏の肌は黒く汚れた。

中国政府が保護に着手したのは、1961年に全国重点文物保护单位に指定してから。本格的な修理が行われたのは、73年9月、フランスのボンビドゥー大統領の雲岡参観に間に合わせるため、周恩来総理が出した特別命令による。

2001年、ようやくの

こと世界文化遺産に登録。

周辺の整備も大々的になされ、雲岡石窟博物館も併設。ところが、館内に展示された年表には、日本人の調査に関する記載はないという。「一般の人からの反発も予想されるので」、ということらしいが、そうした「反発」もわからないではない。

たとえば、GENが緑化協力している霊丘県のある村でのこと。全ジャスコ労組の寄付で建てられた小学校を見学したところ、教室の黒板に「打倒日本帝国主義」と書いてあった。ジョークかと疑ったが、私たちを見かけた村の老人が片手で首を落とす仕草をした、と他の人から聞いた(1999年8月1日)。

同じ霊丘県の別の村でのこと。小学生の「歓迎、歓迎！」の声と、ドラ・太鼓の力演に迎えられて入村。私たち28名と農民・小学生の総勢150人ほどが、丘の畑でクルミの苗木を植える作業中、何度も「マシダ、マシダ」という声を耳にした。日本軍が農家に踏み込んで食糧を調達しようとするとき、「メシだ、メシだ」と叫んだのを聞いて、「マシダ」が日本人に対する蔑称になったらしい。聞えよがしにこう言う人を見て、村人のなかには私たちの手前、複雑な表情をする人もいたが……。夜はこの村で民宿。家人はそれとなく、日本軍が長いあいだ滞在した、と話した(2001年3月8日)。

話を農村部から大同市内にもどすと、GENのワーキング・ツアーがかならず立ち寄る万人坑は、日本軍が中国人の死者やまだ息をしている伝染病患者を投げ込んだ廃坑である。

こうした背景を考えると、雲岡研究にはたした日本人の業績をそのまま受け取れ(ら)ない気持もよく理解できる。





第30回
自然観察インストラクター
養成講座

地域で身近な自然観察会をひらくためのボランティアリーダーを養成する講座です。

- 日程:4月11日(日)～11月27日(土) 全27回
- 講師:石井実氏(大阪府立大学名誉教授)、佐藤治雄氏(大阪府立大学名誉教授)ほか
- 参加資格:18歳以上。身近な自然を守るために何かやりたいと考えているかた。原則としてすべてのプログラムに参加できるかた。
- 受講料:29,000円(教材費、保険料を含む。宿泊講座の宿泊費・食費等は別途必要)
- 定員:15名(先着順)
- 講座会場:大阪市立中央区民センター 水曜日の19時～21時(地下鉄御堂筋線・中央線「堺筋本町」駅より徒歩2分)、野外講座は公園等で9時30分～16時。
- 申込み方法:ハガキまたはe-mailに氏名(フリガナ)、性別、年齢、住所、電話番号を明記し、下記まで。
- 主催・問合せ・申込み:(公社)大阪自然環境保全協会 自然観察インストラクター養成講座係(〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202 tel.06-6242-8720 fax.06-6881-8103 e-mail:inst@nature.or.jp)

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

森林ボランティアリーダー養成講座

森林大学
第36期生募集

もっと森林のことを知りたい人のための市民大学です。

- 日程:4月14日(水)～10月13日(水) (全18回)
- 内容:▼講座:19時00分～20時45分 大阪産業創造館にて▼野外実習:能勢町、箕面国有林、金剛山麓ほか
- 講師:滝口敏行氏、山崎春人氏(森林インストラクター)、山本博氏(林業技士)、森林大学OBほか
- 受講料:35,000円(野外実習の交通費、宿泊費が別途必要)
- 定員:20名(18歳以上、最少催行人数10名)
- 申込み・問合せ:4月13日までに下記まで NPO法人日本森林ボランティア協会(〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30 tel./fax. 06-6376-8255 http://www.npomori.jp e-mail: mori@npomori.jp)

ハッピーアースデイ
大阪 2021

ハッピーアースデイは楽しく地球のことを考えるイベントです。地球にやさしいお店や体験ブースが並びます。

- 日時:3月27日(土)11時～17時
3月28日(日)10時～16時
- 場所:久宝寺緑地修景広場周辺 JR

関西本線・大和路線「久宝寺駅」より北へ徒歩10分、近鉄大阪線「久宝寺口駅」より西へ徒歩15分

- 会場では環境に配慮し、使い捨ての食器ではなくリユース食器の使用を推奨しています。来場の際はマイ箸、マイ食器をお持ちください。
- 主催・問合せ:ハッピーアースデイ大阪実行委員会 URL <http://www.happy-earthday-osaka.jp/>
- 共催:都市公園久宝寺緑地指定管理共同体
- 後援:大阪府

土佐文旦
いかがですか

土佐の春の香りをお楽しみください。

- A 3-4L 5kg (6-9玉) 4,200円
- B 2L 〃 (10-11玉) 3,700円
- C L 〃 (12-13玉) 3,200円

倍量の10kg箱もあります。

- 送料:関西880円、中部・北陸930円、九州970円、関東・甲信越970円、東北・北関東1200円、北海道1450円(20kgまで)

★ご注文は下記まで

【田中農園】

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 tel/fax.0887-29-2500

e-mail: tanakan3@crocons.ocn.ne.jp

※売り上げの一部を寄付していただいていますので、ご注文時にひとこと「GENの紹介」と添えてください。